

CONFERENCE REPORTS (1)

第6回表面科学講演大会

吉原一紘

金属材料技術研究所 〒153 東京都目黒区中目黒 2-3-12

(1987年1月13日受理)

The 6th Conference on Surface Science

Kazuhiro YOSHIHARA

National Research Institute for Metals
2-3-12, Nakameguro, Meguro-ku, Tokyo 153

(Received January 13, 1987)

1. 経 過

日本表面科学会主催の第6回表面科学講演大会が19学協会の協賛を得て、昭和61年12月4日、5日の2日間、東京農工大学工学部（東京都小金井市中町2-24）で行われ、188名の研究者が参加し、最後まで熱心な討論が続けられ、非常に盛会のうちに会を終了した。

この講演大会は、日本表面科学会として、講演大会の前身の討論会から数えると、6回目の試みであり、会員の研究発表の場として定着した催しとなっている。今回は、講演大会実行委員長の難波理事の御世話で、会場は東京農工大を使わせていただいた。また、今回は発表件数が57件となり、前回の件数を大巾に上回ったため、会場は、初めて2会場とした。なお、今回も前回と同様に、12月4日夕刻より、東京農工大生協会館において懇親会が開かれ、清山哲郎会長以下約15名の参加を得て、和気あいあいのなかで話がはずみ、時間の経過も忘れるほどであった。

次に、討論会の内容は表面に関する問題をできるだけ広い分野から集めるということで、今回は前回までなかった薄膜・表面に関する分野を入れ、下記分野を含むことになった。

(1)表面物理、(2)表面化学（触媒を含む）、(3)金属及び半導体表面、(4)微粒子の表面、界面、(5)高分子、生体の表面、界面、(6)薄膜・表面、(7)新材料、複合材料の表面、界面、(8)表面処理、(9)表面の分析

及び評価

講演時間は討論時間も含め、15分を予定したが、議論が集中し討論時間が延長されるものが多かった。また、参加者数が多く、特にB会場では全員が着席できないほどであった。

2. 内 容

講演は招待講演と一般講演に分れ、プログラムは会誌“表面科学”第7巻5号にとじこみのおりである。招待講演は2件あり、電総研の小野雅敏氏に“走査型トンネル顕微鏡による表面原子配列の観察”および新日鉄の大坪孝至氏に“最近の表面分析の定量化の動向”について講演していただいた。いずれの招待講演も現在の表面分析技術の最先端の内容を含むもので、さしもの広いA会場も聴講者で一杯であった。

一般講演は、今回も前回と同様に表面科学の基礎的な現象の研究に関するものが多く、表面処理関係などの応用面に関する発表件数が若干少ないように思われた。日本表面科学会がさらに発展するためにも、表面に関する基礎的な知見をうまく応用に結びつけたような研究の発表も増加することが望まれる。

表面科学は学際的な分野であるため、表面の問題を各分野の方々が一同に会して、それぞれの立場から議論する機会を本会で提供しえたということは大変有意義であると思える。

3. おわりに

今回は講演大会実行委員長難波理事（東京農工大）のお世話で、東京農工大工学部で講演大会を開催することができました。今回は発表件数が非常に増加し、会場が2会場となり、参加者数も多かったため、難波研究室の皆様には運営にあたり、大変お手をかけました。難波理事を始め東京農工大関係者の方々には大変感謝しております。

この講演大会も回を重ねるごとに発表件数、参加者数とも増加しております。このことは表面科学の重要性がますます認識されていることを示しており、日本表面科学会の責任もそれだけ重いということです。この講演大会は年1回開催される、会員同士の情報交換の重要な場ですので、講演大会の内容、運営方法などについて何でもお気付きの点がありましたら、事務局まで御連絡いただければ幸いです。